

馬の背

「蛾ヶ岳」という山に登った。蛾ヶ岳と書いて「ひるがたけ」という不思議な読み方をする山で一二七九メートル、山梨県の比較的南のほうに位置し、富士山が間近に見える山だ。もう何年も山らしい山から遠ざかつてしまっている私でもなんとか登れるところをと、学生時代の仲間(少し年下の後輩たち)が計画してくれた。

四尾連湖(しびれこ)という湖の近くに車を止め、そこから上りは二時間弱、五人だつたが、私に合わせてゆっくり登ってくれた。山頂付近は、標高差百メートルを一気に登る急登があり、かなりしんどかつたが何とか無事山頂に立つことができた。天候に恵まれて、山頂では、雲が切れた富士山を拝むことができた。富士山はいつどこから見てもいいものだが、山頂から間近に見るその姿は、疲れを忘れるものだつた。

さらに、この山歩きの中で印象的だつたもの、それは、新緑の山道と「馬の背」であった。馬の背とは山の尾根線によくみられる、右も左も下り斜面あるいは崖状態になつた細い道のことと、地名というより、馬の背中のような地形を表す言葉である。標高の高い山頂付近であれば、大変危険なコースとなる。北アルプス奥穂高岳の馬の背は難所として特に有名である。

今回のコースは、しばらく登るとすぐに尾根道に出る。あとはしばらく尾根道を歩く。広葉樹の樹林帯の中である。五月、新緑の尾根道は、進んでいくと差し込む光や木々の明るさ、緑の色が次々と変わつていつた。その移り変わりが私たちを楽しませてくれた。そして、何回も目の前に現れたのが馬の背である。

それまで覆いかぶさるように見えていた木々が、そこでは左右の斜面に分かれ、景色が一変する。歩く人に道を開けてくれているようである。だが、見上げてばかりはいられない。道はそれ違うことが難しいくらいの幅だ。左右が急斜面の馬の背では、特に足元に気を付けて歩かなくてはいけない。

特に私には「前歴」がある。一回目は学生時代に縦走をしていて斜面を転げ落ちそうになつた。二回目はもう少し後だが、斜面を一回転したことがあつた。幸いどちらもケガをするほどのことではなかつたのだが要注意である。

下山は、上りと同じルートを下つてきた。下りもまたそれなりに大変であったが、無事おりてくることができた。心地の良い疲れが残つた。

そこから、その日に泊まる山の温泉宿に車で向かつた。